■清和天皇(水尾天皇)

56代天皇。藤原良房の娘の所生で、初の幼帝として即位、摂政制度の始まりになった。

せいわてんのう

文徳天皇即位 850＝

良房の左京一条第で誕生。文徳天皇の第4皇子。母は藤原良房の女明子。同年、皇太子に立てられた。文徳天皇は紀名虎の女静子の生んだ第1皇子惟喬親王を最も寵愛しており、まず惟喬親王を皇位につけ、惟仁親王が成長してから皇位につけようと考えたが、太政大臣の良房を揮って言いだせず、左大臣源信に惟喬親王を皇太子にするよう命じたが拒否され、文徳は不快の念を表わしたといわれる。清和は容姿頗る美しく、厳かなること神のごとく、寛大で憐み思いやり、温和にして慈しみ、人の助言を得て初めて言葉を発し、行動に必ず節度を守り、好んで書伝を読み、思いを仏教に寄せ、鷹狩・魚とりなどの娯みは意にとどめず、人君としての器量があったという。空海の弟真雅は、清和誕生以来日夜侍奉し、宗叡も東宮時代から清和に侍奉した。また高橋文室麻呂から琴を習った。

人民摂政の実 858＝ 8歳：*文徳の崩御を受けて踐祚。本朝幼帝の始めといわれる。政治は藤原良房が行ない、清和はただ重要な問題に関与するだけであった。

・・・・・・ 859＝ 9歳：貞観と改元、この年、内裏において円仁から菩薩戒を受けた。

富士山噴火・ 864＝14歳：元服したが、政治はやはり良房が行なった。

応天門の変・ 866＝16歳：勅して太政大臣の良房に政治を摂行させた。ここに臣下摂政の制度が始まった。

・・・・・・ 868＝18歳：

貞観格成立・ 869＝19歳：清和の第1皇子貞明親王を皇太子に立てた。

藤原良房没・ 872＝22歳：*良房が没すると、清和はみずから政治をみたが、大納言から右大臣に昇進した藤原基経が、その後万機を助理して内外は肅然とし、後世、貞観の治といわれる。

・・・・・・ 876＝26歳：*陽成天皇に譲位し、基経を摂政とした。陽成から太上天皇の尊号と封戸2千戸をおくられた。それまで多くの皇子女に恵まれたが、譲位後は清和院に住み、これより世俗を断ち、

・・・・・・ 877＝27歳：

元慶官田・ 879＝29歳：清和院から基経の山荘粟田院に遷御し、出家した。法諱は素真。宗叡が侍奉した。同年、粟田院から粟田寺に移って宿泊し、牛車で大和国へ行幸。これより大和・摂津国の諸名刹を廻り、

基経太政大臣 880＝30歳：丹波国水尾山寺にいたり、そこを終焉の地と定めた。その後、病を得て、粟田山荘にある円覚寺に遷御。臨終に当り近侍の僧らに命じて金剛輪陀羅尼を誦さしめ、西方に向かって結脚鉄坐し、定印を結び、そのまま崩御。なお生きているがごとくであったという。遺詔により火葬し、山陵を造らなかった。